

令和6年2月6日  
かながわ難病相談・支援センター

1. 薬の内服によってパーキンソニズムが出現した場合、内服を辞めれば症状は消えるのでしょうか。

回答

ほとんどの症例では対象薬剤を中止によってパーキンソニズムは可逆的に改善すると考えられています。自験例では対象薬剤中止からおよそ3か月以内にパーキンソン症状が改善しています。ただし、症状改善までに半年以上かかった例も報告されています。

2. パーキンソン症候群の方に薬物以外で有効な支援の注意点やアドバイスが欲しいです。

回答

それぞれ個々の患者さんの病状に合わせた個別対応になりますので、具体的なアドバイスとして回答しづらい質問になります。一般的には、手術療法・運動療法を含めたりハビリテーションが有効であり、教育・支援・カウンセリング・将来に希望を与える病気の説明がQOLの維持・改善に有効であると考えられています。

3. 排尿障害はPSPの人によく出る症状でしょうか

回答

PSPの80-90%に排尿障害がみられると報告されており、パーキンソン病よりも高頻度と考えられます。症状としては、尿意切迫や頻尿（過活動膀胱）が多く、検査では排尿筋の過活動がみられます。

4. 症状の出方等によってパーキンソン病と関連疾患とに鑑別されるということの理解が深まりました。出現した症状にも特徴があるとのことでしたが、重症化していった場合には、どの疾患も似た様な症状を有していくのでしょうか。

回答

重症化した状態では、両者の鑑別が難しくなると思われます。

5. 多系統萎縮症の方は、スリットサインが早い段階で入るとのお話がありましたが、パーキンソン病との鑑別は比較的早い段階でできると考えてよろしいでしょうか

回答

そう考えてよいと思います。さらに多系統萎縮症(MSA)の中でも、MSA-C(小脳症状を中核とした病型)よりもMSA-P(パーキンソン症状を中核とした病型)の方がより早期からスリットサインを認めると報告されています。